

特集

アジ研読書案内―研究者が薦める3冊

「二つの眼で物事を視るために」

―図書館員が薦める途上国研究入門書―

岸 真由美

このコラムでは、これから途上国の研究を始めようとする方々にとって足がかりとなる入門書を紹介します。アジ研が創立当初から途上国研究のアプローチとして現地に根ざした研究を重視してきたことを踏まえ、地域研究やフィールド調査の入門書として活用できる本を選びました。筆者が所属するアジア経済研究所（以下、アジ研）の図書館で利用できるものを中心に、できるだけ出版の新しいものを挙げています。なお、アジ研図書館が所蔵する図書については角括弧内に請求記号を付しました。

●他者を理解する

稲賀繁美編『異文化理解の倫理に向けて』（名古屋大学出版会 二〇〇〇年）は、自分が生まれ育った社会や国の常識で研究対象の地

域を見ることが狭く歪んだ価値判断につながってしまうことを指摘していて、「他者」を「理解する」とはどういうことなのかを考えさせてくれます。本書の中で稲賀氏は、物事を内と外の二つの視点で見比べると、自分と他者との間に横たわる境界の様々な仕組みが見えてくると言います。地域研究の入門書を読む前にまずこちらを読んでおくのがよいでしょう。

本書はもともと教科書として使用することを前提に編まれており、文化衝突が起こる具体的な現場や事件を取り上げた一六本の論文を四部構成で収録しています。各章の論文を読んだ後により知識を深められるように、各章末には詳しいコメント付きの「読書案内」が掲載されています。類似の他の教科書と比べて優れているのは、どのページを開いても読者が学べ

る工夫と配慮がなされている点です。特に索引を見るとそのことがよく分かります。索引の使い方を詳述したうえで、索引そのものにも執筆業者や出版地域の価値観が反映されているということをさらりと注記しています。

この他、同じく他者を見る視点を扱いつつ、研究を進めるうえで具体的に必要となる文献調査とフィールド調査の方法、論文の書き方まで扱ったものとして、住原則也・箭内匡・芹澤知広著『異文化の学びかた・描きかた―なぜ、どのように研究するのか』（世界思想社 二〇〇一年）があります。巻末には付録として、『論文』の形式について「参考データベース」（異文化研究に関する専門図書館・研究所リスト）が機関種別・地域別・主題別に掲載されているのも便利です。

●地域研究を学ぶ

加藤普章編『新版エリア・スタディ入門―地域研究の学び方』（昭和堂 二〇〇〇年）[G/001/E1]は、地域研究の概要をつかむのに最適です。

本書の序章「地域研究とは何か」の中で加藤氏は、鈴木一郎著『地域研究入門―異文化理解への道』（東京大学出版会 一九九〇年）[J/001/Su1]の「各国別、各地域別の研究であって、特別地域の総合的理解や他地域との対比をその目的としている」という地域研究の定義を引きつつ、対象地域をどのように総合的に理解し、他の地域と対比していくかがポイントになると述べています。この「どのように」という問いに対しては、地域研究は「複数の手法や手段（＝専門分野）を使うこと」によって答えようとしています。そしてこのよ

うな総合的なアプローチでは、対象地域を観察して収集した事実関係と理論的な枠組みや分析モデルの二つの均衡を保ちながら研究を進めることが重要になります。

さて、本書の構成は、序章で地域研究の意義から具体的な勉強の仕方までを簡潔にまとめ、第一部で西欧諸国と非西欧諸国をそれぞれ対象とする論文をバランスよく収め、そして、第二部でイスラム、国際移住、民族・人種問題といった、特定の地域や国を超えたより大きなテーマを扱う形になっています。巻末の付録も充実しており、付録一は、対象地域別・種類別（現代史・研究ガイドや参考図書・事例研究の三種類）に文献を紹介し、付録二は、対象地域別に専門図書館・研究所一覧を載せています。そして、付録三はインターネットで入手可能な情報について補足しています。

右の本以外にも次のような入門書があります。問題の切り口や研究の手法を学んでみてください。

・吉田昌夫編『地域研究入門―世界の地域を理解するために』（古今書院 二〇〇二年）[C/001/C3]

・山口博一・小倉充夫・田巻松雄

編著『地域研究の課題と方法―アジア・アフリカ社会研究入門―理論編』（文化書房博文社 二〇〇六年）[C/001/C4/1]

・山口博一・小倉充夫・田巻松雄編著『地域研究の課題と方法―アジア・アフリカ社会研究入門―実証編』（文化書房博文社 二〇〇六年）[C/001/C4/2]

・地域研究コンソーシアム編『地域研究』（昭和堂）[Pja/001/Ch1001] ※年一回刊行の学術雑誌。特に、第七巻第一号（二〇〇五年）は地域研究そのものの特集です。内容は「特集一 方法としての地域研究」、「リーディングガイド」、「特集二 地域研究資料の新天地」となっています。

●フィールドに出る

佐藤郁哉著『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』（新曜社 二〇〇二年）[G/001/F6] は、フィールド調査を始める前に一度は読んでおくべき本です。

フィールド調査では、実施前や実施中、そして実施後も、具体的な進め方に悩むことが多々あります。例えば、調査対象の現地の人々とのような立場で関わればよい

のか、調査課題はどうやって定めればよいのか、調査中のメモ（フィールドノート）はどう取ればよいのか、聞き取り調査はどう実施すればよいのか、集めたデータの整理はどうやるのか、そして、調査の仕上げとして調査報告書はどうまとめればよいのか、といった疑問や悩みです。こうした疑問は、現地で先達と一緒に実地で学ぶ機会があれば、その都度助言を仰いで解決していけるかもしれません。

が、フィールド調査の難しさは、調査地域やテーマが調査者一人ひとり異なることが多い点にあるように思います。その意味で本書は、著者の体験談（失敗談も含みます）とともにフィールド調査の心得や技法が詳述されていて、調査者が調査時に突きあたる悩み・疑問を解決する糸口を与えてくれます。調査に携行して困った時々に開いてみる使い方もできるでしょう。

同様にフィールド調査の方法を具体的に解説しているものとして、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科・京都大学東南アジア研究所編『京大式フィールドワーク入門』（N T T出版 二〇〇六年）[G/001/K5] があります。

本書は調査課題の設定の仕方からデータの取得・分析方法、聞き取り調査やサーベイ調査のやり方などを、それぞれ実際の研究論文を題材にして解説している点が特徴です。

また、フィールド調査の方法論的な点に焦点をあてたものとして、中村尚司・広岡博之編『フィールドワークの新技法』（日本評論社 二〇〇〇年）[G/001/F5] もあります。

なお、『アジア研ワールド・トレンド』（アジア経済研究所）[Pja/3/4/10] では二〇一〇年四月（一七五号）から「フィールドワーク心得帖」として、アジア研の研究員がフィールド調査の体験談を連載しています。第一回からすべての回の全文をオンラインで読むことができます（http://www.ajide.go.jp/Japanese/Publish/Periodicals/W_trend/ も <http://d-arch.ajide.go.jp/aide/>）。

（きし まゆみ／アジア経済研究所 図書館）